

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

東京医科大学消化器外科・小児外科での国内外科研修を終えて

名古屋市立大学消化器外科

齊藤 健太

この度、日本臨床外科学会の国内外科研修制度により、東京医科大学消化器外科・小児外科で平成30年10月15日から10月19日までの1週間において短期研修をさせていただきました。名古屋市立大学消化器外科齊藤健太と申します。

まず始めに、このような機会を与えていただきました日本臨床外科学会跡見裕会長、国内外科研修委員会高山忠利委員長をはじめとした委員の皆様、またご多忙の中私の研修を温かく迎え入れて下さった東京医科大学消化器外科・小児外科教授土田明彦先生、准教授永川裕一先生をはじめとする医局員の皆様に心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

私が研修させていただきました東京医科大学消化器外科・小児外科は年間膵切除件数が日本有数で、膵切除においては、腹腔鏡下手術はもとより、ロボット支援下手術も行っている、日本の膵臓外科を代表する施設であり、ぜひ東京医科大学で研修したいと思い、応募させていただきました。膵臓外科を主に担当している私にとって、東京医科大学での研修は非常に貴重な経験となりました。

研修中は主に膵臓外科の手術につきご指導いただきました。手術は膵頭十二指腸切除術3例(開腹2例、腹腔鏡下1例)、腹腔鏡下膵体尾部切除術1例を含め、1週間という短い期間のなか、多くの手術を見学させていただきました。実際、手洗いをし、術野にも参加させていただきました。その定型化された術式、特に徹底した術野展開にとっても感銘をうけました。手術のスピードにも圧倒されましたが、その中でも操作は非常に丁寧かつ繊細でありました。開腹膵頭十二指腸切除術が4時間ですべて終了しているにもかかわらず、「急がない」と話されながら閉腹されている姿に驚くとともに感銘をうけました。また、腹腔鏡下膵頭十二指腸切除が行われた日には、同時に開催された勉強会にも参加させていただきました。全国より参加された数施設の皆様とともに、朝からの実際の手術見学にはじまり、手術終了後は永川先生から腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術に関する講義まで、とても内容の濃い一日を過ごすことができ、当手術に対する理解が深まりました。

病棟回診や、科内検討会、内科との合同検討会、ICUカンファレンスにも参加させていただきました。病棟では通常のパスなどの流れや合併症に対する対処法まで細かくご説明いただきました。施設間での文化の違いもあり、とてもためになりました。また、毎週行われている、関連病院を含めた数施設でのスカイプを用いたビデオカンファレンスにも参加させていただき、皆様の手術に対するこだわり、特にデバイスの適切な使用法、切離ラインの設定法など印象的なご指摘が多数あり、とても参考になりました。空き時間には実際行われた過去の手術ビデオを供覧させていただき、さらに手術の理解を深めることができました。

また、皆様本当に大変ご多忙の中、食事会もひらいていただき、いろいろなお話をさせていただきました。こういった交流も本研修の醍醐味だと思いました。皆様、とても明るく、雰囲気の良いチームであり、多くの手術が滞りなく経過していくのも、このチームワークあってこそだと感じました。

今回の研修は短期間ではありましたが、私にとってとても有意義で貴重な経験となりました。膵臓手術に対する治療方針や術後の管理法、合併症への対策など新たな知見を得られたと同時に、当科のそれと大きく違いがないことを確認できたのも非常に重要な経験であったと感じております。また、私と同

世代の先生方も複数みえ、とてもいい刺激をいただいととも、背景が異なり場所が違えど、同世代がほぼ同じ悩みを抱えながら多忙な外科医生活を過ごしている姿を共有できたことも貴重な経験でした。本研修を今後の私の外科診療に生かすのは当然のこと、当科のレベルアップに役立てていければと考えております。

最後に、本研修に私をご推薦いただきました、当科教授瀧口修司先生、また、本当にお忙しい中、不在期間中の業務を負担していただくことになるにも関わらず、私を快く研修に送り出してください、当科准教授松尾洋一先生をはじめとした肝胆膵外科スタッフ、名古屋市立大学消化器外科医局の皆様に心より感謝申し上げます。

